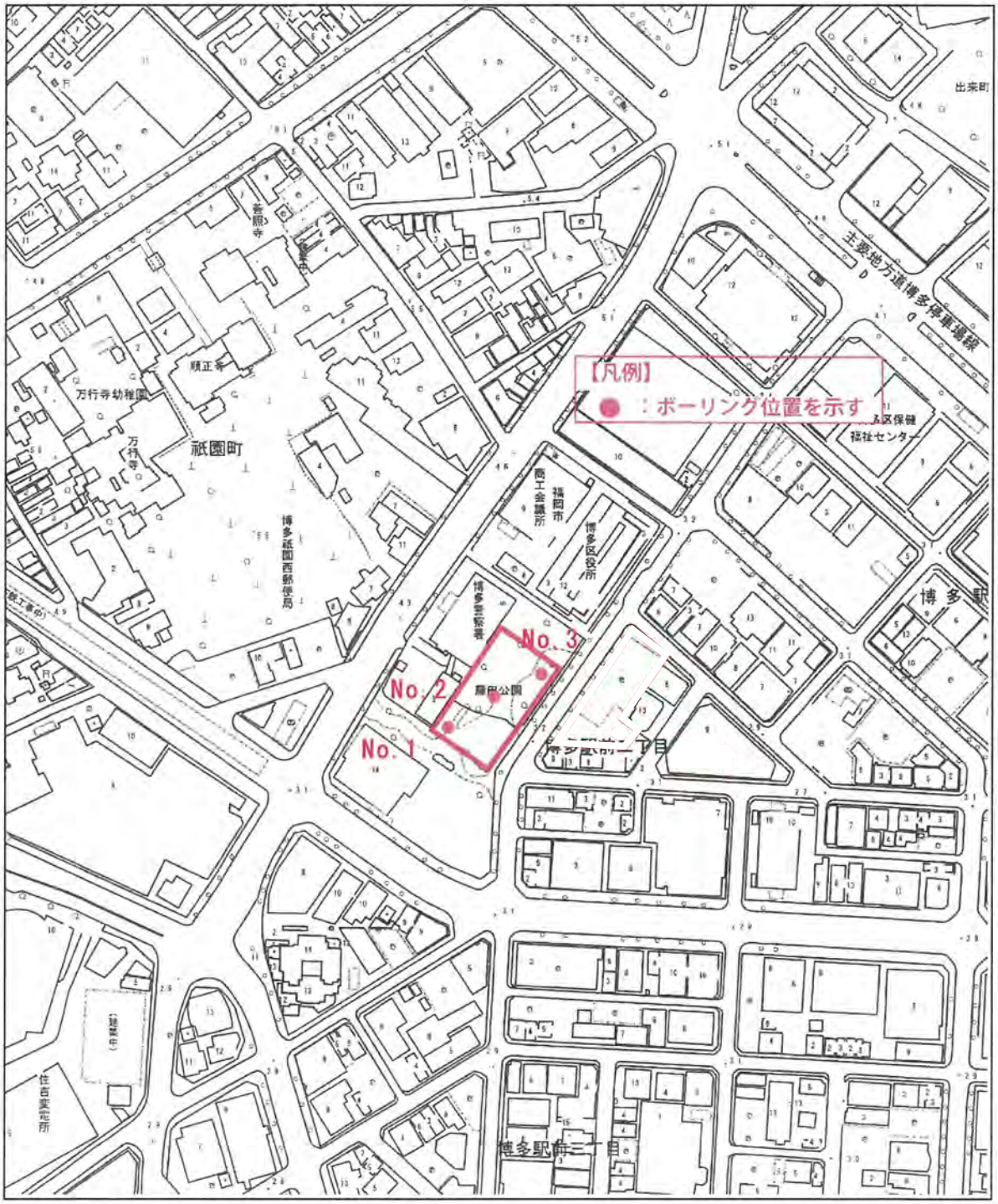
地質調査結果

■調査位置平面図



地質調査結果

■ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

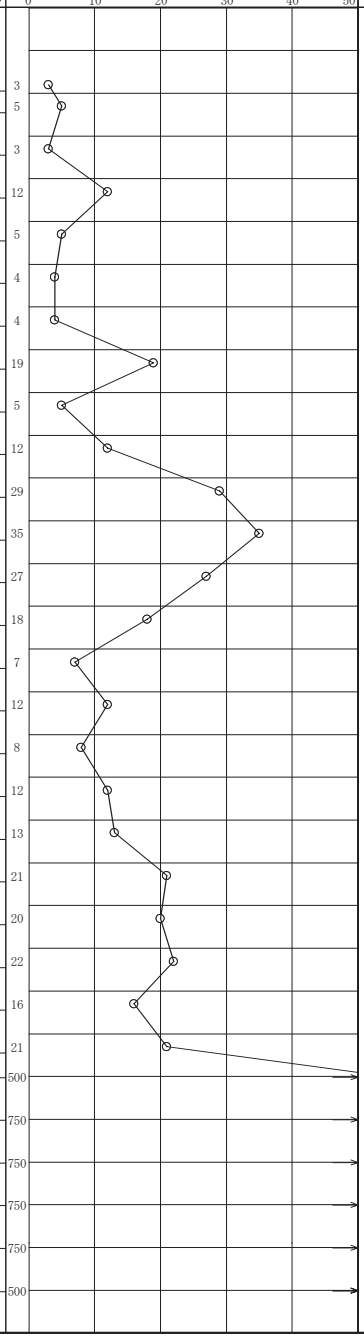
ボーリング名	No.1	調査位置	福岡市博多区博多駅前2丁目地内			北緯	
発注機関				調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	KBM +0.53m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°	使用機種	試錐機	東邦製 D0-C型	ハンマー落下用具	半自動落下式
総掘進長	30.00m								エンジン	ヤンマー製 NFD-12型	ポンプ	東邦製 BG-3型

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	-0.77	1.30	1.30		盛土（砂礫）	茶			まさ土を主体とする公園造成盛土。200mm程度のコンクリート塊を混入する。
2	-2.17	1.40	2.70		盛土（礫混じり粘土質砂）	黒褐	緩い		生ボタを主体とし、全体に粘土質砂状を呈する。砂分は細砂からなり、角礫状の炭質頁岩を混在する。
3	-2.77	0.60	3.30		粘土質砂	暗灰	非常に緩い		中細砂を主体とし、全体に粘土分を多く含む。
4	-4.27	1.50	4.80		礫混じり砂	黄褐～淡黄灰	中位の		粗中砂を主体とする。φ2～5mm程度の花崗岩質亜角礫を混入する。最大礫径は10mm程度。
5									
6	-6.17	1.90	6.70		礫混じり砂	灰	緩い		中細砂を主体とする。φ2～5mm程度の花崗岩質亜角～亜円礫を混入する。
7					シルト質砂	淡青灰	緩い～中位の		中細砂を主体とし、全体にシルト分を含む。下部はシルト分が減少する。
8	-8.27	2.10	8.80						
9	-9.17	0.90	9.70		砂質シルト	暗灰		中位の	含水比、粘性共に中位。腐植物片を混入する。
10	-10.17	1.00	10.70		シルト質砂	灰	中位の		中細砂を主体とし、全体にシルト分を含む。
11					礫混じり砂	暗灰～灰	中位の～密な		粗中砂を主体とする。φ2～5mmの亜角～亜円礫を混入する。花崗岩質礫を主とし、最大礫径は20mm程度。一部砂礫状を呈する。
12									
13	-13.17	3.00	13.70						
14					礫混じりシルト質砂	灰	緩い～中位の		花崗岩砕屑物（二次堆積まさ土）を主体とし、全体にシルト分を多く含む。φ2～10mmの花崗岩質亜円礫を混入し、最大礫径は40mm程度。花崗岩類のくさり礫を混在する。
15									
16									
17									
18	-18.27	5.10	18.80						
19					粘土質砂礫	黄褐～暗黄褐	中位の		φ2～10mmの亜円礫を主体とし、全体に粘土分を含む。砂粒子は粗砂からなる。花崗岩質礫を主とし、最大礫径は30mm程度。花崗岩強風化礫～くさり礫及び片岩くさり礫を混在し、指圧で容易に崩せ、粘土混じり砂状となる。マトリックス（礫間充填物）は粘土質砂からなる。
20									
21									
22									
23	-22.77	4.50	23.30						
	-23.27	0.50	23.80		砂質粘土	暗黄灰			低固結状を呈する。
24					粘土混じり砂礫	暗黄褐	中位の		φ2～20mmの亜角～亜円礫を主体とし、全体に粘土分を含む。砂粒子は粗砂からなり、片岩礫を主とし、最大礫径は50mm程度。
25	-24.47	1.20	25.00						
26					礫質砂岩	青灰			5～20cmの棒状コアで採取される中硬質岩。ハンマーの打撃で軽い金属音を発する。コアは強打撃で割ることが可能で、下部ほど礫含有量が増える。
27									
28	-27.97	3.50	28.50						
29					砂質頁岩	暗青			5～20cmの棒状コア主体に採取される軟岩。炭分を所々に含み、一部細粒砂岩部を挟在する。
30	-29.47	1.50	30.00						

孔内水位(m)／測定月日：10/22 3.15

標準貫入試験

深度(m)	打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.65～1.95	1	1	1	3/30	3
2.15	2	1	2	30/30	5
2.45～3.15	1	2		3/30	3
3.45～4.15	3	4	5	12/30	12
4.45～5.15	2	1	2	5/30	5
5.45～6.15	1	1	2	4/30	4
6.45～7.15	1	2	1	4/30	4
7.45～8.15	6	7	6	19/30	19
8.45～9.15	2	1	2	5/30	5
9.45～10.15	4	4	4	12/30	12
10.45～11.15	10	10	9	29/30	29
11.45～12.15	10	13	12	35/30	35
12.45～13.15	9	9	9	27/30	27
13.45～14.15	6	6	6	18/30	18
14.45～15.15	2	2	3	7/30	7
15.45～16.15	3	4	5	12/30	12
16.45～17.15	3	2	3	8/30	8
17.45～18.15	4	4	4	12/30	12
18.45～19.15	3	5	5	13/30	13
19.45～20.15	6	7	8	21/30	21
20.45～21.15	5	7	8	20/30	20
21.45～22.15	6	8	8	22/30	22
22.45～23.15	4	6	6	16/30	16
23.45～24.15	6	6	9	21/30	21
24.45～25.00	50			30/3	500
25.03～26.00	50			50/2	750
26.02～27.00	50			50/2	750
27.02～28.00	50			50/2	750
28.02～29.00	50			50/2	750
29.02～30.00	50			50/3	500
30.03					



原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
4.15～4.45	P1-1	⊖	粒度	
6.15～6.45	P1-2	⊖	粒度	
7.15～7.45	P1-3	⊖	粒度	
10.15～10.45	P1-4	⊖	粒度	10/22
15.15～15.45	P1-6	⊖	粒度	
17.15～17.45	P1-7	⊖	粒度	
19.15～19.45	P1-8	⊖	粒度	10/23
26.40～26.60	C1-1	Ⓒ	一軸	10/24
27.30～27.50	C1-2	Ⓒ	一軸	
				10/25
				10/26

地質調査結果

■ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

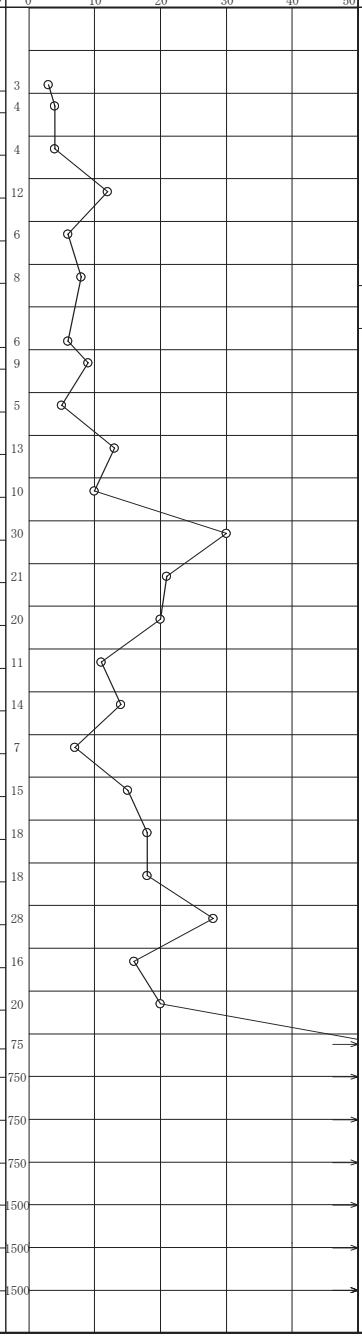
ボーリング名	No.2	調査位置	福岡市博多区博多駅前2丁目地内			北緯	
発注機関				調査期間		東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	KBM +0.83m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦製 D0-C型	ハンマー落下用具	半自動落下式
総掘進長	30.00m								エンジン	ヤンマー製 NFD-12型	ポンプ	東邦製 BG-3型

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	-0.17	1.00	1.00	盛土（礫混じり砂）	茶褐			粗～細砂からなる公園造成盛土。φ2～30mmの角礫を多く混入する。最大礫径は250mm程度。
2				盛土（礫混じり粘土質砂）	黒褐	非常に緩い		ボタを主体とし、下部はボタ混じり粘土質砂からなる。生ボタを主とし、φ60mmの焼きボタを混入する。
3	-2.37	2.20	3.20					
4	-3.97	1.60	4.80	礫混じり砂	暗茶灰	緩い～中位の		粗中砂を主体とする。φ2～5mmの亜円礫を混入する。
5								
6	-5.97	2.00	6.80	シルト混じり砂	灰	緩い		粗中砂を主体とし、全体にシルト分を含む。細砂をブロック状に混在する。
7								
8	-7.97	2.00	8.80	シルト質砂	淡青灰	緩い		中細砂を主体とし、全体にシルト分を多く含む。腐植物片を混入する。
9	-8.97	1.00	9.80	砂質シルト	暗灰		中位の	含水比は低く、粘性は小さい。径5mmのサンドパイプが認められる。
10				シルト混じり砂	暗灰	中位の		細中砂を主体とし、全体にシルト分を含む。φ2～5mm以下の細礫を少量混じえる。
11	-10.37	1.40	11.20					
	-10.67	0.30	11.50	砂混じり粘土	青灰		硬い	含水比は低く、粘性は大きい。粗砂をブロック状に混入する。
12				礫混じり砂	灰	中位の		粗中砂を主体とする。φ2～10mmの珪長質礫を混入し、一部砂礫状となる。最大礫径は30mmの珪長質亜円礫。
13								
14	-13.97	3.30	14.80					
15				礫混じりシルト質砂	淡灰	緩い～中位の		花崗岩砕屑物（二次堆積まさ土）を主体とし、全体にシルト分を多く含む。花崗岩類のくさり礫を混在し、亜円礫も混じえる。
16								
17								
18	-17.77	3.80	18.60					
19				粘土質砂礫	黄褐～暗褐	中位の		φ2～20mmの亜角～亜円礫を主体とし、全体に粘土分を含む。花崗岩及び片岩のくさり礫を主とし、試料は指圧で崩せ、粘土質砂～粗砂状となる。珪長質礫を混じえ、最大礫径は40mm程度。マトリックス（礫間充填物）は粘土質砂からなる。
20								
21								
22								
23	-22.87	5.10	23.70					
24	-24.07	1.20	24.90	シルト混じり砂礫	褐	非常に密な		φ2～10mmの亜角礫を主体とし、全体にシルト分を少量含む。
25				砂岩	青灰			中粒～粗粒砂岩からなり、10～20cmの棒状コア主体で採取される中硬質岩。コアはハンマー強打で割ることができる。
26								
27	-26.37	2.30	27.20					
28				礫岩	青灰			硬質な礫岩からなり、10～20cmの棒状コアで採取される。ハンマー軽打で鈍い金属音を発し、強打撃で割ることができる。29.00m付近、高角度の割れ目が認められ、淡青灰色の粘土を挟在する。
29								
30	-29.17	2.80	30.00					

孔内水位(m)／測定日：11/2 3.40

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.65 / 1.95	1 / 2	1 / 1	1 / 1	3/30	3
2.15				3/30	4
2.45 / 3.15	1	1	2	4/30	4
3.45 / 4.15	4	4	4	12/30	12
4.45 / 5.15	2	2	2	6/30	6
5.45 / 6.15	2	3	3	8/30	8
6.45 / 7.65	2	2	2	6/30	6
7.95 / 8.15	3	3	3	9/30	9
8.45 / 9.15	1	2	2	5/30	5
9.45 / 10.15	4	4	5	13/30	13
10.45 / 11.15	3	4	3	10/30	10
11.45 / 12.15	10	10	10	30/30	30
12.45 / 13.15	5	7	9	21/30	21
13.45 / 14.15	7	7	6	20/30	20
14.45 / 15.15	4	3	4	11/30	11
15.45 / 16.15	4	5	5	14/30	14
16.45 / 17.15	3	2	2	7/30	7
17.45 / 18.15	5	5	5	15/30	15
18.45 / 19.15	5	7	6	18/30	18
19.45 / 20.15	7	6	5	18/30	18
20.45 / 21.15	11	9	8	28/30	28
21.45 / 22.15	6	5	5	16/30	16
22.45 / 23.15	6	6	8	20/30	20
23.45 / 24.15	18	32		50/20	75
24.35 / 25.00	50/2			50/2	750
25.02 / 26.00	50/2			50/2	750
26.02 / 27.00	50/2			50/2	750
27.02 / 28.00	50/1			50/1	1500
28.01 / 29.00	50/1			50/1	1500
29.01 / 30.00	50/1			50/1	1500
30.01					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
6.50	孔内水平載荷試験					11/2
7.50						11/6
						11/6
						11/7
						11/8

地質調査結果

■ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo	

シートNo

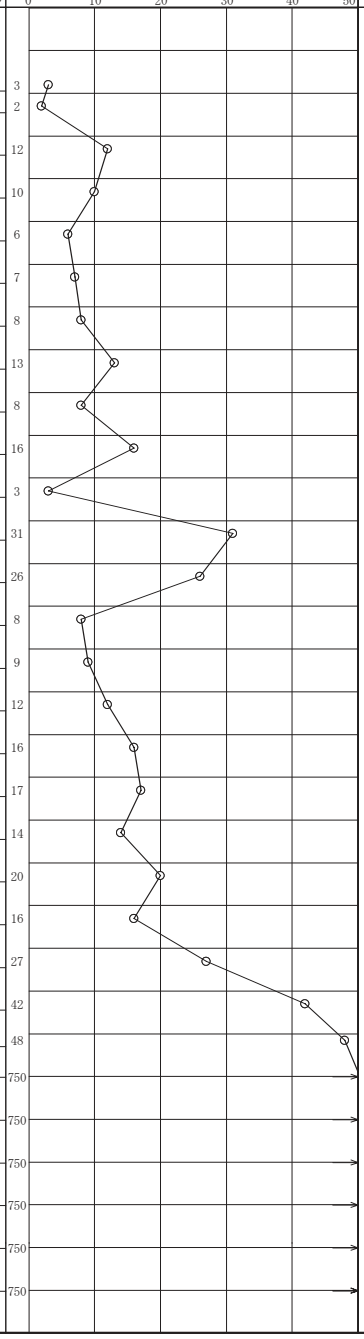
ボーリング名	No.3	調査位置	福岡市博多区博多駅前2丁目地内					北緯	
発注機関				調査期間				東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	KBM +0.75m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	
総掘進長	30.00m							試錐機	東邦製　D0-C型
								ハンマー落下用具	半自動落下式
								エンジン	ヤンマー製　NFD-12型
								ポンプ	東邦製　BG-3型

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	-0.25	1.00	1.00	盛土（砂礫）	茶			φ5～50mmの角礫を主体とする公園造成盛土。砂分は中細砂からなる。
2 3	-2.45	2.20	3.20	盛土（砂質土）	暗褐灰	非常に緩い		1.00～1.80m, 2.30～3.20m間は、まさ土（粗砂）を主体とし、1.80～2.30m間は、礫混じり粘土質砂からなる。φ2～10mmの細礫を混入する。
4 5 6	-5.95	3.50	6.70	礫混じり砂	黄褐灰～淡青灰	緩い		粗中砂を主体とする。φ2～10mmの亜角～亜円礫を混入する。最大礫径は25mm程度。5.00m以深では、細砂をブロック状に混在する。
7 8	-8.05	2.10	8.80	シルト混じり砂	淡灰	緩い～中位の		砂粒子は細～粗砂からなり、全体にシルト分を含む。下部ほど粗粒となり、φ2～5mmの亜円礫を混入する。
9	-8.95	0.90	9.70	砂質粘土	暗灰	中位の		含水比は低く、粘性は大きい。9.20～9.30m間に粗砂の薄層を挟在する。
10	-10.05	1.10	10.80	礫混じり砂	暗灰	中位の		粗中砂を主体とする。φ2～10mmの亜角～亜円礫を混入する。最大礫径は15mm程度。
11	-10.75	0.70	11.50	砂混じり粘土	暗青灰		軟らかい	含水比は中位で、粘性は大きい。サンドパイプが認められる。
12 13	-12.95	2.20	13.70	礫混じり砂	灰～淡黄灰	中位の～密な		粗中砂を主体とする。φ2～5mmの亜角～亜円礫を混入する。最大礫径は30mm程度。
14 15 16 17	-16.55	3.60	17.30	礫混じりシルト質砂	淡緑灰～淡灰	緩い～中位の		花崗岩砕屑物（二次堆積まさ土）を主体とする。上部ほどシルト分を多く含む。花崗岩類のくさり礫を混在する。
18 19 20 21 22 23	-22.25	5.70	23.00	粘土質砂礫	黄褐	中位の		φ2～10mmの亜角～亜円礫を主体とし、全体に粘土分を含む。花崗岩質礫を主とし、最大礫径は30mm程度。花崗岩及び片岩のくさり礫を混入し、指圧で崩せ、粘土混じり砂状となる。マトリックス（礫間充填物）は粘土混じり粗砂からなる。
24	-23.85	1.60	24.60	玉石混じり砂礫	暗灰	密な		φ2～30mmの亜角～亜円礫を主体とする。礫種は片岩礫を主とし、花崗岩礫を含む。120mm程度の硬質な火山岩玉石を混じえる。マトリックス（礫間充填物）は粘土混じ砂からなり、風化礫を混在する。
25 26 27 28 29 30	-29.25	5.40	30.00	砂岩	暗青灰～青灰			主に粗粒砂岩からなる中硬質岩。24.60～25.00m間、頁岩～細粒砂岩からなる。5～10cmの棒状コア主体で採取される。ハンマーの打撃で割ることが可能で、下部は礫分を含む。

孔内水位(m)／測定月日：10/27 3.30

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.65～1.95	1	1	1	3/30	3
2.15～2.45	1/15	1/15		2/30	2
2.45～3.15	4	4	4	12/30	12
3.45～4.15	3	4	3	10/30	10
4.45～5.15	3	2	1	6/30	6
5.45～6.15	3	2	2	7/30	7
6.45～7.15	3	3	2	8/30	8
7.45～8.15	4	5	4	13/30	13
8.45～9.15	3	3	2	8/30	8
9.45～10.15	6	6	4	16/30	16
10.45～11.15	1	1	1	3/30	3
11.45～12.15	9	11	11	31/30	31
12.45～13.15	8	9	9	26/30	26
13.45～14.15	2	3	3	8/30	8
14.45～15.15	3	3	3	9/30	9
15.45～16.15	5	4	3	12/30	12
16.45～17.15	6	7	3	16/30	16
17.45～18.15	4	7	6	17/30	17
18.45～19.15	5	4	5	14/30	14
19.45～20.15	6	7	7	20/30	20
20.45～21.15	5	5	6	16/30	16
21.45～22.15	9	11	7	27/30	27
22.45～23.15	10	13	19	42/30	42
23.45～24.00	12	15	21	48/30	48
24.30～25.00	50/2			50/2	750
25.02～26.00	50/2			50/2	750
26.02～27.00	50/2			50/2	750
27.02～28.00	50/2			50/2	750
28.02～29.00	50/2			50/2	750
29.02～30.00	50/2			50/2	750
30.02					



原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						10/27
						10/29
						10/30
						10/31
						11/1